

「お金」を面白いほど引き寄せる黄金ルール

34. こんながまんは”富の蛇口”をしめるようなもの！

いまいる環境でベストを尽くすことが豊になる起爆剤となる。

どんな境遇であっても、与えられた環境でベストの生活をするように心がけるのは豊かさを手に入れる上でとてもよいことです。なぜかという、富裕感覚を持つことが、その感覚をますます拡大させる原動力になるからです。よくこういうことを言う人がいます。「今はだめだけれど、何とかなるように努力しています。今はがまんの時期なのです」。こう言いながら、不本意な生活を続けていると、ますますよくない状態を自分に引きつけてしまうのです。

欠乏感を持つ人が不本意な生活をしていると、さらに大きな欠乏が加えられる。潜在意識の働きとは、そのようなものなのです。こんな実話があります。

すごい節約家の学校の先生がいました。すでに利息だけで一生食べていけるだけの貯金をしていました。にも関わらず、先生の生活は次のようなものでした。

- ・校長になる誘いを断り続けた。理由は、校長になるとつきあいが増え、交際費がかさむと考えたからだった。
- ・たまに肉を買って帰宅するときは、学校の電話を使って何軒かの肉屋に当たり、一番安い店に注文した。
- ・通勤は自転車を使い、学校へ着くと屋内に入れタイヤの空気を必ず抜いた。チューブの酸化を少しでも防ごうという配慮からだった。
- ・同僚が休日、先生の住む家の付近の城跡を見学し、帰りに遊びに行くという計画を立てたところ、ビール数本とつまみを持参して城跡に現れ、そこでもてなしを済ませてしまった。

これが一生利息で食べていけるだけのお金持ちの日常生活なのです。ここまで徹底していれば、逆にすがすがしいような気もしますが、先生はある日、自転車で帰宅途中、急に意識を失い、そのまま亡くなりました。

先生は「今はがまんのときであり、現役を引退したら……」という心積もりだったのかも知れません。しかし、現役を引退してもゆとりのある生活をしたかは疑わしいものです。たぶんどきなかつたでしょう。どんなふう生きようと、その人の自由ですが、あなたはこの先生のような一生を望めますか。
